

日経平均株価

3万3780円58銭

▼955円35銭(前日比)

TOPIX

2482.06

▼86.55(前日比)

2025

4/7

月曜日

発行元 株式会社 株式市場新聞社

〒541-0058

大阪市中央区南久宝寺町3丁目2-7

TEL 06-6105-1904



2月期通期決算発表始まる

内需系から安定成長銘柄を選別



今回の決算は内需に注目

き船い方%比円ら1業に月前大器の
化合にる修増8(10利の期2手。世
して絡。正(4)0益の連は5年既
おむ新へ上0で1結1月2に
活引して上0で1結1月2に

はれる期寄業びお今模地円0億の3
セ9る待与態のむ期は様した着万09増
ブ日さ。がの新すは。た。の



8日発表ではダイ
セキ(9793)と
子会社のダイセキ環
境ソリューション
(9793)が注目
されよう。ダイセキ
は26年2月に産
廃処理の新規取引拡

大が期待されるうえ、
ダイセキ環境も首都
圏の大型案件が寄与
しそうだ。
9日発表では古野
電気(6814)は
魚群探知機や電子海
図など船舶用電子機

が高水準で防衛関連
も高水準で業績拡大
が継続しよう。
同じく9日発表の
コマダホールデー
ン(3543)は
25年2月期は営業
利益で前の期比7・

阪・関西万博効果だ
が今期も都市再開発
案件の受注増が期待
される。
10日の乃村工藝
社(9716)は前
25年2月期の営業
利益で前の期比5
3・5%増の80億
円を着地の模様。大

トランプ関税砲の不安ない

名実共に4月からの新年度に突入し2月期企業から通期
決算の発表が本格的にスタートする。自動車や半導体など含
めて輸出系が多い3月期企業とは異なり、外食や小売りなど
の内需系企業が多くを占め、為替や原料などのコスト増を克
服して安定成長する銘柄を選別できれば、連日報じられるト
ランプ関税砲による突風を気にすることなく中期視野でも
不安なく投資できるのは魅力だ。次期も好調な業績が期待で
きる銘柄を含めて注目できる銘柄をピックアップしてみた。

り、今期
以降も新
造船需要
製造関連

たい。
300億の
乃村工藝
社(9716)は前
25年2月期の営業
利益で前の期比5
3・5%増の80億
円を着地の模様。大

3月第4週の動意銘柄

太陽HDが一時S高

期末配当大幅に引き上げ

週明け24日、太陽ホールディングス(4626)が一時

0円(前期80円)へ増配すると発表したこと

アンビス不正請求

アンビスホールディングス(7071)がストップ安。有料老人ホーム「医心館」のうち複数のホーム



タイミ収益低下懸念後退

が後退した。「タウン

25日、タイミー(215A)が一段高。リクルー

池上通信機

ワークスキマ」は24年秋に提供開始と発表していた。

98傘下のリクルートがスポーツワークサービス「タウンワークスキマ(仮称)」の開発を中止すると発表し、収益低下懸念

山一電機6.4%自社株買い

山一電機(6941)が続急伸。21日の取引終了後、自己株式取得枠の設定を発表した。上限125万株

公開価格の2.5倍

ミライイロの初値

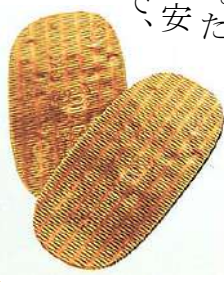
前日に東証グロース市場に新規上場したミライイロ(335A)が公開価格270円の2.45倍となる661円で初値をつけた。デジタル障害者手帳「ミライイロID」の企画、設計、開発、提供やユニバーサルデザインに関する研修、リサーチ

正直いいさんの株で大判小判

前週の東京市場は大幅に続落しました。日経平均は前の週から3339円下落する波乱の展開で、一気に3万4000円割れまで水準を切り下げています。スタグフレーション懸念から米国株が調整色を強めたあとは、米政権による相互関税を前に一旦下げ渋りま

不安定も本格反騰に備える

面があるでしょう。ただ、不透明要因は多く不安定な地合いが続きそう、本格反騰に備え候補銘柄をピックアップしておく考えです。花咲翁



公開価格の2.1倍

VPJの初値

&コンサルテイニング、上場、公開価格1430円の2.1倍となる3040円で初値をつけた。デジタル資産管理を中核に、企業の事業活動における媒体(WEB、E C、SNS、カタログ、映像、出版)、コンテンツの制作・管理・配信を支援する。



住友鉱山の日足チャート

非鉄大に手買い広がる

NY銅先物10カ月ぶり最高値

が大幅高。前日のNY商品取引所で、銅先物期近5月物価格が一時、1ポンド5.24年5月以来、10カ月ぶりに最高値

26日、住友金属(5713)や三井金属(5706)、DO(5714)、WALDEN(5714)、グス(5714)、三菱マテリアル(5711)など

を更新したことで非鉄大手に買いが広がった。トランプ米大統領領が銅に対する追加関税をかける方針を打ち出したことで、需給逼迫観測から価格上圧力が強まった。

インタラティブ増額増配

インタラティブホールディングス(1418)が大幅反発。25年2月期の業績予想について、連結売上高で155億円(前期比33.9%増)へ、営業利益で6億円から8億7500万円(同3.2倍)へ上方修正、期末一括配当を10円から20円(前期8円)へ引き上

ミライロがストップ高

ミライロ(335A)がストップ高。デジタル障害者手帳「ミライロID」の企画・開発、提供やユニバーサルデザインに関する研修、リサーチ&コンサル、手話通訳派遣、遠隔通訳のほか手話講座を提供する事業内容が評価され、公開価格が270円と低位だったことも値ごろ感からの買いを誘っているようだ。

ノート横浜教育委導入

27日、note(5243)がストップ高。横浜市教育委員会が、教育委員会向け「note pro」一括導入プランを活用し、教育委員会と管轄の全小中学

校の計480校のnoteを開設したと発表した。横浜市が行っている特色ある教育や未来に向けた取り組みなどを、さまざまなテーマで発信していくという。

松井証券

今こそ始めるデイトレード

松井証券の一日信用取引

手数料0円 金利・貸株料0~1.8%

取引コスト

プレミアム空売り

独自サービス

最短3分でお申込み完了!

【無料】新規口座開設はこちら

marketpress.jpのバナーをクリック



自動車軟調も下渋る

25%関税正式発表を嫌気

27日、トヨタ自動車(7203)、ホンダ(7267)をはじめ自動車株が軟調。トランプ大統領は輸入する自動車に25%の関税を課すと正式に発表した。ことが嫌気された。25%関税はかねてから報道されてきたことから一段と売れ込む動きにはならなかった。ホンダは米国での生産拡大に取り組むなど対応を進めてきたことから、今後はトランプ大統領

領の次なる動きを待つことになりそうだ。**公開価格28%上回る**ダイナマップの初値ダイナミックマッププラットフォーム(336A)が東証グロース市場に新規

上場、公開価格1200円を27.5%上回る1530円で初値が生まれた。自動車・先進運転支援システムなどに用いられる高精度3次元地図データの生成・販売とHDマップ関連技術を用いた、自動車以外にも多用途で高精度位置情報・ソリューションの提供を行う。



日本製鉄は大幅続落

USスチールへの投資額増額

週末28日、日本製鉄(5401)が大幅続落。1ヶ月と3月としていたUSスチールの買収実行予定時期を4月6日に変更すると発表された。米メディアの報道によると、トランプ米政権が投資額の増額を提案しており、費用負担の増加が懸念された。USスチール

の工場刷新に向けて提案していた投資額は27億ドルだが、最大70億ドルまで増額される可能性があるという。**イオレ新事業を開始へ**イオレ(2334)が続騰。新事業として暗号資産金融とAIデータセンター事業を開始すると発表した。AIを用いた暗号資産運用モデルの開発と運用、担保融資、GPUサーバの仕入れ販売から保管・運用などを検討。投資資金は投資事業有限責任組合J

AIIC Web3フアンドとZUU(4387)を割当先とする第三者割り当てによる新株式と新株予約権発行により、約4億1700万円を調達する。**公開価格の3.2倍**Zenmutec(338A)が公開価格1580円の3.2倍となる5000円で初値が生まれた。暗号技術を応

用した秘密分散技術によるセキュリティソリューションと秘密計算ソリューションを開発・販売する。**公開価格19%上回る**トミーの初値トミー(341A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格730円を19.3%上回る871円で初値をつけた。3層の樹脂をスプレーコーティングし強い耐な屋根に蘇らせる「SOSEI」の施工と老朽化インフラの

サビや塗膜などをレーザーで除去する「Coil Laser」を製造・販売する。**公開価格30円上回る**プログレスの初値プログレス・テクノロジーズグループ(339A)が東証グロース市場に新規上場、公開価格1950円を30円上回る1980円で初値が生まれた。大手製造業向けデジタルソリューション・デジタルエシニアリングサービスの提供を行う。

転ばぬ先のテクニカル

強い銘柄に付く

先週の東京株式市場はトランプ関税発動により急落してしまいました。日経平均につづきボックス圏内の往來を続けていたTOPIXも下放れてしまい、昨年8月第1週~2週に残っていた週足の窓を埋める急落。ただ、内需・円高メリット関連銘柄には上値追いする銘柄もあり、暴落ではなく値幅調整と見るべきなのでしょう。

全ての国に課す10%の「基本税率」発動は4月5日、国ごとの「上乗せ税率」は9日から発動されます。この影響が経済指標で確認できるのは来月であり、しばし各マーケットへ織り込むには時間が必要です。

ただ、足元の急落によりテクニカル指標は売られ過ぎシグナルが点灯しており、今週は一旦リバウンドを試すものと思われます。その場合、戻り売り対処でポジションを調整し、この下げ相場で逆行高した銘柄へ乗り換えるべきでしょう。 日々勇太郎



4月第1週の動意銘柄

半導体株下落目立つ

SOX約3%のきつい下げ

週明け31日、ディスコ(614)が大幅安で昨年更新したほか、アドバンテスト(685)や東京エレクトロン(8035)、レーザ



を上回ったことで、前週末の米国株市場ではハイテク株が売り込まれ、SOX指数は約3%のきつい下げになった流れが波及。台湾TSMCが熊本工場で製造装置の搬入のペースを抑えることが伝わったことも買いを手控えた。

伸和HD優待基準日追加

札証アンビシヤス上場の伸和ホールディングス(7118)がストッピング高。株主優待制度の基準日を3月末の年1回から9月末を加えた年2回にするが発表された。

DI連続ストップ安

ドリームインキュベータ(4310)が28日続きストップ安。配当権利落ちに伴い処分売りが殺到した。25年3月期は第2四半期末に106円の特別配当を実施、

期末も317円の特配当を予定しており、年間配当は423円。前日終値ベースで配当利回り9.5%の高水準になる。ただ、25年3月期までの中計期間中に総額100億円の株主還元

H・I・Sが急反発

1Q61%営業増益を好感

1日、エイチ・アイ・エス(9603)が急反発。25年10月期の第1四半期(11月1日)決算は、連結営業利益で前年同期比61.1%増の52億900万円と大幅な増益となったことが好感された。海外旅行事業においては、HIS最大規模のセール「初夢フェア2025」にて価格重視から特別企画などの高付加価値商品まで様々な旅行プランを通じて集客強化を図って

を行うとしているが、26年3月期以降は配当水準の大幅な低下が予想されている。

公開価格35%上回る

ジグザクの初値ジグザク(340A)が東証グロース市場

インテグストップ安

インテググループ(192A)がストップ

百貨店3月売上減少

エイチ・ツー・オーリテイリング(8242)、三越伊勢丹ホールディングス(3099)の百貨店株の下げが目立った。H2オリテは3月度の売上高が全店合計で前年同月比3.7%減、三越伊勢丹は国内百貨店合

に新規上場、公開価格1500円を35.33%上回る2030円で初値が生まれた。海外カスタマー向け購入支援サービス「WorldShop ping」と国内ECサイト向け越境Eコマース支援サービス「WorldShop ping」を提供する。gBIZ」を提供する。

安。25年5月期の第3四半期累計決算は連結営業利益で前年同期比24.4%減の4億9400万円となったことが嫌気された。複数案件で検討期間の長期化や不成立が生じ、成約組数は前年同四半

計で1.6%減と伸び悩んだ。全国的な天候不順で客足が鈍り、前年高伸した反動と円高の影響が重なり、免税売上の伸びが鈍化した。

イオレは5連続

イオレ(2334)が5連続。3月26日に新事業として暗

期を下回った。

キッズバイオ持田薬と共同事業

キッズウエル・バイオ(4584)がストップ高。25年3月期の業績予想について、連結最終損益で9億5000万円の赤字から2億円の赤字(前期14億2200万円の赤字)へ修正した。財務体質強化のため投資有価証券売却益を計上。同時に持田製薬(4534)と国内における小児脳性麻痺と外傷性脳損傷を対象とした乳歯歯髓幹細胞の実用化に向けた共同事業化で合意している。

号資産金融事業、AIデータセンター事業を開始すると発表したことで、引き続き新規事業への期待が高まった。AIを用いた暗号資産運用モデル開発と運用、担保融資、GPUサーバーの仕入れ販売から保管・運用などを検討している。

高野恭壽の株式情報 **これでどや!!**



株式市場新聞の名物コーナーが復活!

3日の日経平均は相互関税の発表で急落しました。寄り付きでいきなり680円余りの下落となつた後も下落に拍車がかかり、3万4102円まで1600円以上の下落をみて買戻しから値を戻しはじめたのですが、3万5000円近辺まで戻すと上値が重くなり、3万5000円を割り込んだままで終え、4日も続落となっております。米国の相互関税の発表は2日に米国株式が終了した後でした。その影響はまず、日本株式の大幅下落となつて表面化しました。3日の米国株式は日本株の急落をみて、1679ドル安と4万0545ドルまで急落しました。ここからまだ大きく売られるのかとウシガネ

突っ込み場面は勇気持って

買の余力がなく、なかなか新規買いできず、状況でないとはいえず、ここは我慢して乗り切りましょう。

にそう思うのは当然でしょうが、日本株がそれを織り込んだことを考えますと、ここからは米国株ほどの下落はないとみています。従って引き続き突っ込み場面は勇気を持って臨むべきだと思っています。昨年の8月5日の水準まで到達したことは陰の極場面になったと考えるべきで、ここからの悲観は避けるべきだと思っています。関税問題の影響を受けないスズキ(7269)は自動車株の中で唯一の存在になっていきます。再び下落した場面は引き続き注目すべきと思つています。同時に内需系の選別買いで対応すべきです。しかし、皆さんは皆さんは

高野恭壽(たかのやすひさ)氏 株式市場新聞大阪支社長、株式新聞社大阪本社代表を経て株式評論家へ。講演会のほかラジオ大阪「タカさんの新鮮・株情報」をはじめTV、ラジオに出演。「株式投資30カ条」など著書も。公式ホームページ <https://marketpress.jp/kabu-takano/>

米株急落織込み済み

ません。シカゴ先物で1200円安となつていただけ

宇宙関連2銘柄S高

小型SAR衛星実証を好感

2日、Synsp
ective(290A)とQPS研究

(5595)の宇宙関連2銘柄がストップ高まで買われた。Synsは内閣府宇宙開発戦略推進事務局が推進する「令和7年度小型SAR衛星コンステレーションの利用拡大に向けた実証」に採択されたこと、QPSは小型SAR衛星コンステレーション利用拡大に向けた実証事業を落札したことが引



Synsの日足チャート

き続き好感された。

銀行株総じて値崩す

3日、三菱UFJフィナンシャル・グループ(8306)を筆頭とするメガバンクやりそなホールディングス(8308)など銀行株が総じて値を崩した。トランプ大統領領表後に時間外で米長期金利が急降下、1ドル147円台までの円高や景気悪化を懸念して日銀金融政策決定会合での利上げ時期が遠のくとの思惑から投げ売りが出た。

KADOKAWA大幅続伸

KADOKAWA(9468)が大幅続伸。傘下のフロム・ソフトウェアが

マルチプレイアクション「The Dusknblods」をNintendo Switch向けに2026年に世界同時発売、「ELDENRING Tarnished Editon」も同様にSwitch向けに25年に発売すると発表した。

シックスはベトナム高関税

アシックス(7936)が急反落。米政権による相互関税でベトナムが46%の高関税が課せられることからナイキ株が急落、ベトナム生産比率が高い同社株にも連想売りが波及

良品計画既存店20%増

良品計画(7453)が大幅に3日続伸。3月の月次動向で、直営既存店とオンラインを合わせた売上高が前年同月比20.5%増と14カ月連続で前年実績を上回った。

一段安あれば行き過ぎ

コロナショック型底値形成へ

0年のコロナショックである。チャイナショック時の減益率は実際には11%程度に留まったが、株価はオーバーシュートして30%近く下落している。今回はヘッジファンドの衝撃と不安心理の増幅という急落の構図から、2020年3月のコロナショックに近いかもしれない。

光世証券 エグゼクティブ・マネージャー
西川 雅博 氏

長年、自由貿易とグローバル化は資本主義の繁栄と世界経済の成長にとって必要不可欠で、当たり前のものと考えられていた。過去、貿易交渉が懸念材料になったことがあったが、当事国同士の不均衡は正の域を出ていない。それだけに、今回の自由貿易体制そのものを否定するトランプ関税の衝撃は計り知れない。不透明感の増幅というより未体験ゾーン突入との不安心理が広がった。自明の理であったものが崩壊して、世界中の金融市場が動揺している。

4月後半には決算発表が始まるが、会社予想は相当厳しい数字になりそうだ。昨年、日本から米国への輸出額は約21兆円あり、24%の関税なら約5兆円である。全てが上場企業分ではなく負担率も不明だが、これはTOPIXの利益総額50兆円の10%に相当する。円高もあり決算発表時点で減益予想が避けられないであろう。



アベノミクス以降、TOPIX構成企業のEPS予想が10%以上減益になったことが2度あった。

2015年のチャイナショックと2020

今年、コロナショックとの比較では日柄でまだ半分、下げ率では7割程度であり、下げ余地を意識せざるを得ないが、コロナ時と同じくショック安の様相で、一気に大底をつける下げパターンを想定している。今後は、内容に関わらずトランプ関税の概要が明らかになり、マクロ経済に加え各種業種、企業ごとの影響度の分析が進むこと自体が落ち着きを取り戻す背景になるだろう。4月4日現在、TOPIXの予想PERは13倍台まで低下して、バリュエーション面でも10%程度の減益は織り込んだところからの下げはあったとしてもオーバーシュートとみる。

個別では京都フィナンシャルグループ(5844)、ソニーグループ(6758)、三菱重工業(7011)など。

VIX ETFの日足チャート



VIX ETF 最高値

NY市場暴落受け資金集中

週末4日、VIX

短期先物指数ETF

(318A)が続急伸、

上場来高値を更新し

た。今年1月15日

に上場したETFで、

S&P500VIX

短期先物指数超過リ

ターンを対象指標と

していることからニ

ューヨーク市場で主

要3指数が暴落し、

恐怖指数と言われる

VIX指数が30台

に急上昇、昨年8月

以来の高水準をつけ

るなか、リスクヘッ

ジ的な観点からも資

金が集中した。

グッドコムA利回り

グッドコムアセツ

ト(3475)がス

トップ高。福証重複

上場に伴う記念株主

優待として25年5

月末と10月末に5

00株以上を保有す

る株主に2万円、1

000株以上では5

万円分のデジタルギ

フトを贈呈すると発

表した。1000株

以上の優待利回りは

前日終値ベースで1

2・8%、配当を加

えた利回りは18・

5%に急拡大する。

キユーピーはアク抜け

キユーピー(28

09)が反発。25

年11月期の第1四

半期決算は連結営業

利益で前年同期比2

9・0%減の57億

8600万円となつ

たが前日までの下落

でアク抜けの動き。

建物を再生し、 次世代につなぐ。



大阪城公園内にある「MIRAIZA OSAKA-JO」。

100年近い歳月を重ねた建物が
新たな複合施設へと生まれ変わりました。

大和ハウス工業は歴史的建造物の趣を生かすリノベーションを通じて、
賑わいと文化を次世代へ継承する取り組みをサポートしました。

そしてこれからも、不動産の再生と循環を通じて
持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

不動産の再生 [買取・再販]

不動産の売却 [売買・仲介]

修繕・改修 [維持管理]

BIZ Livness

事業・商業施設の再生は ビズリブネス

詳細はこちら



大和ハウス工業株式会社 〈不動産ストック事業〉

東京都千代田区飯田橋3丁目13番1号 〒102-8112

Tel 03-5214-2424

www.daiwahouse.co.jp





今年も日本政府は苦肉の策で第2のキャバリエ輸入に動くかも知れないが、日米のメーカーに關係なく、その国のユーザー目線に沿った自動車を開発しないとまたまた失敗するだろう。自己中心的で厄介な相手には強気で対応してもいいと思う。



年にかけてGMから輸入した「キャバリエ」だ。米国からの4ドアセダンと2ドアクーペの2車種で、日本使用に右ハンドルだったのを覚えている。今やが、さっぱり売れなかったのを覚えている。今や日本で一番売れているのは軽自動車で、その中でトップなのがF1の技術者が開発したホンダのN-BOXだ。狭い日本の道路では燃費が良く、荷物一杯載せれる軽自動車に人気の集中している。今回も日本政府は苦肉の策で第2のキャバリエ

星野三太郎の株街往来

～売れなかったキャバリエ～

「米国の自動車を買え」で思い出したのがGMからトヨタがOEMとして1996年から2000年にかけてGMから輸入した「キャバリエ」だ。米国からの4ドアセダンと2ドアクーペの2車種で、日本使用に右ハンドルだったのを覚えている。今やが、さっぱり売れなかったのを覚えている。今や日本で一番売れているのは軽自動車で、その中でトップなのがF1の技術者が開発したホンダのN-BOXだ。狭い日本の道路では燃費が良く、荷物一杯載せれる軽自動車に人気の集中している。今回も日本政府は苦肉の策で第2のキャバリエ

相変わらず



New product

サントリー

凍らせてラテ・フラッペ

満足感ある甘みと爽やかな食感



クラフトボス 凍らせてラテ・フラッペ

サントリー食品インターナショナル(2587)は「クラフトボス」コーヒーシリーズ史上初となる、フラッペタイプの商品「クラフトボス 凍らせてラテ・フラッペ」を4月8日から発売する。満足感のある甘みと、フラッペならではのシャリシャリとした爽やかな食感を楽しめるラテ・フラッペで、冷凍庫で凍らせることで本来の美味しさを最大限に引き出す。冷凍庫から取り出し、周りが溶け始めたらシェイクし、シャカシャカと音がするようになったら飲み頃。振ることでシャリシャリとした均一なシャーベット状になり、最後までなめらかな口当たりを楽しめる。

アサヒビール

パッケージ刷新し提案強化

「アサヒドライゼロ 泡ジョッキ缶」



アサヒグループホールディングス(2502)グループのアサヒビールは、泡を楽しむノンアルコールビールテイスト飲料「アサヒドライゼ

ロ 泡ジョッキ缶」のパッケージをリニューアルして、4月22日から数量限定で発売する。

「アサヒドライゼロ」は3月製造分から3年ぶりに中味をリニューアル、飲みごたえ・キレを強化することで、従来よりもビールに近い味わいを実現している。新パッケージを含めたプロモーションでは暑い季節に向けて氷を入れて楽しむ“ドライゼロアイス”の提案を強化し、5月27日からオリジナルジョッキが当たるキャンペーンを展開する。最盛期である夏に向け、より冷涼感を手軽に味わえるように“ドライゼロアイス”を通じて飲用喚起を図っていく。

潮流

仕組まれた高関税ショック

個人弱気になれば外人は買戻す

marKet/bAnk



4月3日の日経平均は大幅安となり、989円（2.77%）安の3万4735円で終えた。節目の3万5000円を下回り、2024年8月6日以来、約8カ月ぶりの安値だ。

一時、下げ幅は1600円を超え3万4102円を付ける場面があった。トランプ米政権が貿易相手国・地域と同水準に関税を引き上げる「相互関税」の詳細を公表し、日本に24%の追加関税を課すと明らかにした。高関税が日本や世界全体の経済に与える悪影響が改めて意識された。インフレと景気減速の同時進行の「スタグフレーション」が警戒された。

既に日本時間3日早朝6時の大阪取引所の日経平均先物は930円安い3万4830円で終えていた。米国市場はその1時間前（日本時間5時）にダウ工業株30種平均は235ドル高で終えていた。その時点では日経平均先物は3万6510円と上昇していた。それから僅か1時間で1680円（▼4.6%）も売られたのだ。3日の先物取引開始時には日経225先物は3万3390円まで売られた。つまり、外国人投機筋は前日の米国で高関税のニュースが発表されると大証の先物市場で日経225先物を

3万6510円で売り仕掛け、3日の9時前には3万3390円まで3120円

も下げさせたのである。

この間、僅か1時間15分だ。

米国市場でダウ平均が3月13日の安値4万661ドルを割れずに戻すようなら、3日の225先物の安値が底になるだろう。日経平均は3月1日に3万

5987円の安値を付けた後、3月26日には3万8220円まで2233円上昇した。この上昇は外国人投機筋による先物の買戻しだ。3月10日～21日の先物の投資部門別株式売買動向（日経平均先物、TOPIX先物、ミニ日経平均先物、ミニTOPIX先物の合計）によると、外国人投資家は2週間で6959億円買い越した。しかし、外国人投機筋は一転して3月第4週（3月24～28日）には、4312億円売り越しに転じた。現物株との合算では1兆2729億円の売り越した。

4月に入っても売りを仕掛けており、日本株は外国人投機筋に支配されている。外国人投機筋は個人投資家が弱気になれば買戻しを入れる。その時は米ハイテク株の代表的なマグニフィセント7（壮大な7銘柄）が底を打って買い戻される。潮流銘柄は良品計画（7453）、三菱商事（8058）、スカパーJ SATホールディングス（9412）。

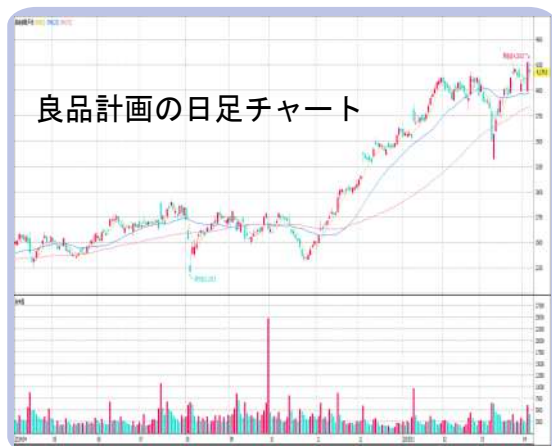


岡山 憲史氏（株式会社マーケットバンク 代表取締役）のプロフィール

1999年2月日本初の資産運用コンテスト「第1回S1グランプリ」にて1万人超の参加者の中から優勝。2002年

にNHK番組「経済最前線」にて独自の投資支援システムが紹介された。直近では2024年3月の夕刊フジ主催の「株1グランプリ」で優勝。週刊現代、週刊ポスト、夕刊フジ、ネットマネー、月刊カレントなど幅広く執筆活動を行う。現在、個人投資家に投資情報サービスを行う。http://marketbank.jp

先物売仕掛けで寄り前急落





敏腕先物ディーラー

ハチロクの裏話

ハチロクのプロフィール
証券アナリストから証券会社の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。

の法人部長を経て、225先物オプションディーラーに転身。アナリスト時代に培ったテクニカルやファンダメンタルズなどの分析力を駆使、リーマンショックなどの暴落時も乗り越えて西日本における225先物オプションディーラーとしてはトップクラスの運用実績を誇る。



関税で孤立する米国

先週の日経平均は前週末比約3339円安と大幅下落、2週連続で週陰線となった。原因は予想を上回る率の「相互関税発動」だ。従来のトランプ氏の発言から強気の関税を課すとは思われたが、同盟国や友好国にも容赦の無い追加関税で各国は動揺した。これにすぐ反応したの

つ向から「受けて立つ」姿勢を示した。EUや日本は報復関税には否定的で、交渉で関税率の引き下げを狙う道を選んでいるようだ。貿易戦争には勝者はいない。結局、インフレを招き消費が減退し、スタグフレーションを起こす可能性が高くなるだけである。負担を強いられるのはそれぞれの国の民なのだ。世界の基軸国である米国が貿易のルールを一方的に突然変えるということはないことである。今



NYダウの日足チャート

の売られ過ぎの30円処から均線(3万6925日移動平均線)を割るまで様子見が必要である。今週のレンジは3万0000円(3万4000円)。

(ハチロク)

落ちてくるナイフは掴むな
今週も波乱相場に

が中国、カナダである。さすがに同率の関税を米国輸入製品に課すと公表し真向から「受けて立つ」姿勢を示した。EUや日本は報復関税には否定的で、交渉で関税率の引き下げを狙う道を選んでいるようだ。貿易戦争には勝者はいない。結局、インフレを招き消費が減退し、スタグフレーションを起こす可能性が高くなるだけである。負担を強いられるのはそれぞれの国の民なのだ。世界の基軸国である米国が貿易のルールを一方的に突然変えるということはないことである。今回の関税追加で日本はGDPベースで4兆円のマイナスと試算されているようだが、世界経済が萎縮すれば影響は計り知れない。そういう世界経済の停滞が想定されている先週の相場であったと思う。リーマンショック級の下落に繋がる可能性も高く注意は必要だ。この下落を止めるにはどこの国が米国と交渉し関税率を引き上げてもらうなど、具体的な実例がでてこないに戻りは厳しそうだ。今週は4月限のミニSQ週である。先月もSQ週に合わせて売りが加速した。外部要因だけでなく需給的にもプット買いと合わせて売りで稼ぎやすい状態に今はある。現在、騰落レシオは89%であり、セリングクライマックスの70%台までは余地があり「売られ過ぎ」とはなっていない。25日移動平均線(3万6925日移動平均線)を割るまで様子見が必要である。今週のレンジは3万0000円(3万4000円)。



日経225先物日足チャート

「落ちてくるナイフは素手で掴むな」であり、今回は暴落が一旦落ち着くまで様子見が必要である。今週のレンジは3万0000円(3万4000円)。今週も波乱相場となる。今週は4月限のミニSQ週である。先月もSQ週に合わせて売りが加速した。外部要因だけでなく需給的にもプット買いと合わせて売りで稼ぎやすい状態に今はある。現在、騰落レシオは89%であり、セリングクライマックスの70%台までは余地があり「売られ過ぎ」とはなっていない。25日移動平均線(3万6925日移動平均線)を割るまで様子見が必要である。今週のレンジは3万0000円(3万4000円)。

記者の視点

相場見通し

傷深く簡単に癒えない？

SQ週で先物の動きに警戒

4月第1週の東京市場は日経平均で4日に3万3259円76銭まで値を崩す波乱の動きになった。2日にトランプ大統領が各国に課す相互関税の詳細を発表。日本には24%の相互関税を課すなど想定以上の内容だったことから、時間外のNYダウ先物とナスダック先物の急落とともに3日は一時、1623円超安まで急落、その後は下げ渋る動きとなったが、3日のニューヨーク市場でダウが1679・39ドル安と暴落、S&P500ベースでおよそ2兆ドル(約290兆円)の時価総額が吹っ飛ぶ動きになり、週末の東京市場でも波乱が継続する動きになった。

今後は各国との交渉次第で関税率の縮小の可能性はあるが、トランプ大統領は

当面のスケジュール

- ・ 7日 2月毎月勤労統計調査
2月景気動向指数
- ・ 8日 3月景気ウォッチャー調査
- ・ 9日 3月消費動向調査
3月工作機械受注
植田日銀総裁、信託大会で挨拶
3月18・19日開催のFOMC議事録
米政府、各国ごとの上乗せ分の相互関税発効
- ・ 10日 3月国内企業物価
中国3月生産者物価、中国3月消費者物価
米3月消費者物価
- ・ 11日 3月マネーストック
オプションSQ
米3月生産者物価
- ・ 13日 大阪・関西万博開幕(～10/13)
- ・ 14日 中国3月貿易収支
- ・ 15日 米4月NY連銀製造業景気指数
- ・ 16日 中国3月工業生産、中国3月小売売上高、中国3月都市部固定資産投資、中国1-3月期GDP
米3月小売売上高
米3月鉱工業生産・設備稼働率
- ・ 17日 3月貿易統計
ECB定例理事会(ラガルド総裁会見)
米3月住宅着工件数
米4月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
- ・ 18日 3月消費者物価
聖金曜日(欧米・アジア・オセアニア各国休場)

「手術は終わった。今後、株式市場は活況を取り戻す」と強気の姿勢を崩していかない。米国では1968年以來最大の増税となり、一瞬で吹っ飛んだ時価総額をも考慮すると、修復にはかなりの時間を要することになる。

今週は9日にFOMC議事録、10日に米3月消費者物価、11日に米3月生産者物価の発表が予定されている。FOMC議事録に關しては、今回のトランプ

大統領の相互関税をどれだけ想定しているかだが、スタグフレーションの懸念が高まるなかで、今後の金融政策に思惑が高まる。物価指数も相互関税の影響懸念から過剰に反応する可能性はある。国内では10日にイオン(8267)、良品計画(7453)など小売りの2月決算が控える。好決算なら内需のデフュンシブとして逃避的な資金が向かいそうだ。日経平均は日足で4空叩き込みで暴落終盤で一旦は買戻しも期待されるが、11日のオプションSQに絡み先物絡めた動きに引き続き警戒したい。



編集後記

朝起きると腰に違和感があり、時間が経つにつれ力が入らなくなっていた。動くが大変なことになると感じたので、一日安静にして病院で診てもらおうとぎっくり腰になる手前だった。すぐに針治療をして悪化させずに済んだが、春先の暖かくなりだす時期は腰痛と首の凝りが起こりやすい季節らしい。体が十分な柔らかさを取り戻せていないのに、寒さで固まった状態のまま動いてしまうからという。株式市場はトランプ関税による春の嵐が吹き荒れている。下手に動かさず状況を

【ご注意】株式市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測の的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被らたいたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。